

令和4年度 授業計画書(シラバス)

科目名	人文科学概論 (コミュニケーションを含む)	
課程	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅう科 専門課程	
対象クラス	2年	
担当教官名	平瀬芳美	
修得単位数	2単位	
年間授業時数	30時間	
授業の方法	講義	
科目の概要 (授業科目の内容)	(1) 医療面接について(接遇実技を含む) (2) 接遇について(外部講師による特別授業を含む) *コミュニケーション (3) 上記以外の内容(例:パソコンの基礎知識、文芸等) 3は、希望に基づいて実施します。	
到達目標	コミュニケーション・接遇について、より深い知識を得る。 臨床実習に向けて、医療面接がスムーズにできるようになる。	
授業計画	前期計 (15週)	前期計 15時間
	1 人文科学概論オリエンテーション	1
	2 医療面接(解説編)	
	(1) 復習(実践編、墨字:18~69頁、DAISY:12~44頁、点字:第1巻)	1
	(2) 理想的な医療面接(墨:72~95、D:48~65、点:第2巻1~47)	1
(3) 医療面接のコミュニケーション(墨:97~111、D:66~76、点:48~78)	1	
(4) コミュニケーションの実際(墨:112~117、D:76~80、点:78~90)	1	
(5) ことば遣い(待遇表現、敬意表現)(墨:117~122、D:80~83、点90~99)	2	
(6) 方言、身だしなみ、環境整備(墨:123~128、D:84~87、点99~108)	2	
(7) 質問法(墨:131~140、D:89~94、点:115~131)	1	
(8) 傾聴(墨:141~164、D:96~111、点:133~173)	2	
3 接遇(外部講師による特別授業を含む) *コミュニケーション(3時間)	3	
4 期末試験		
	後期計 (15週)	後期計 15時間
1 医療面接(続き)		
(1) 患者の解釈モデル(墨:166~189、D:113~130、点:第3巻1~47)	2	
(2) 患者への説明、教育(墨:192~206、D:131~141、点:52~76)	2	
(3) 患者への対応(セクハラ等)(墨:207~228、D:142~158、点:79~122)	2	
(4) 医療面接学習編(墨:232~268、D:162~181、点:第4巻)	2	
3 接遇実技(臨床実習における患者対応) *コミュニケーション(6時間)		
(1) シナリオ確認	1	
(2) オリエンテーション、リハーサル	3	
(3) 患者対応ロールプレイ	1	
(4) 反省、フィードバック	1	
4 その他	1	
5 期末試験		
実務経験の有無 その活かし方	無	
成績評価の方法	定着度の確認は、通常授業の中の質疑等で行います。前・後期とも期末に「評価及び試験実施要領」第3条に基づく試験(評価)を行い、当該学期の評価点とします。学年末評価は、前期と後期の評価点の平均点(小数点以下は切り捨て)です。この学年末評価が60点以上であることが単位修得要件の1つです。	
履修上の留意点	出席要件を満たし、学年末成績が50点以上の場合のみ、再評価試験を行います。いかなる理由でも、15分を超える遅刻や早退は欠席となります。	
自己学習の進め方	予習よりも、復習を軸にした学習習慣の形成を期待します。	
使用教科書	鍼灸臨床における医療面接〔拡大版〕 丹澤章八	
参考書/参考資料		

令和4年度 授業計画書(シラバス)

科目名	社会科学概論	
課程	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅう科 専門課程	
対象クラス	2年	
担当教官名	河原塚 由紀	
修得単位数	2単位	
年間授業時数	30時間	
授業の方法	講義	
科目の概要 (授業科目の内容)	コンピュータの活用を通じて、視覚障害者の文書処理に活用し、各科目の学習に役立てるとともに、情報を適切に収集・処理・発信するための基本的な知識や技能を習得する授業です。	
到達目標	3年次での臨床実習におけるカルテ作成ができる。また、卒業後の就労時に役立つコンピュータに関する技術や知識を身に着けます。	
授業計画	前期計 (15週)	前期計 15時間
	パソコンによる情報処理 ①ガイダンス ②パソコンの仕組み ③キーボード操作と音声ソフト ④パソコンソフトの実際 ⑤パソコンの活用 期末試験(総括的評価) 期末試験の講評	1 2 5 3 3 1
	後期計 (15週)	後期計 15時間
	パソコンの理療への活用 ①理療におけるパソコン利用の目的と意義(カルテ作成) ②理療援助の支援システム ③その他の支援システム 期末試験(総括的評価) 期末試験の講評	12 1 1 1
実務経験の有無 その活かし方	無	
成績評価の方法	前期、後期ともに期末に「評価及び試験実施要領」第3条に基づく試験(評価)を行い当該学期の評価点とします。学年末評価は、前期と後期の評価点の平均点(小数点以下は切り捨て)です。この学年末評価が60点以上であることが単位修得要件の1つです。なお、前期、後期ともに習熟度を確認するため中間期チェックを行う予定ですが、これは評価に含まれません。	
履修上の留意点	授業の冒頭では前回の授業の要点を復習します。授業はカルテ作成を目標において進め、各項目ごとに習得度を確認します。習得が不十分な場合は可能な限り繰り返し練習することで理解を深めます。	
自己学習の進め方	1週間に1回の授業ですので、授業のみでの技術の習得は難しいこともあります。そのため利用者の皆さんには技術がより早く定着できるよう、1回につき短時間でも良いので居室または学習パソコン室において実際にパソコンを使用して繰り返しの練習を期待します。	
使用教科書	無	
参考書/参考資料	無	

令和4年度 授業計画書(シラバス)

科目名	自然科学概論	
課程	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅう科 専門課程	
対象クラス	2年	
担当教官名	武田和男	
修得単位数	2単位	
年間授業時数	30時間	
授業の方法	講義	
科目の概要 (授業科目の内容)	原子と分子が生命現象の基本構造を形成しその変化によって生命活動が維持されており、原子レベルから地球の生命活動があることを理解し、地球史レベルの時間の流れと生命の進化を学びます。	
到達目標	東西の医学を学ぶ者として必要な、自然科学の基礎的な理念・概念・法側頭を理解し、生命活動の基本構造及び生命活動について説明することができる。	
授業計画	前期計 (15週)	前期計 15時間
	丁先生漢方っておもしろいです あなたの体は9割が細菌 免疫革命 ファーブル昆虫記 キンバエ 動的平衡 深海で生命のルーツを探る まとめの時間 前期期末試験	3 3 3 1 2 1 2
授業計画	前期計 (15週)	後期計 15時間
	ワタムシ・地質年代 DVD酸素大発生 地球大進化1～3 まとめ 地球大進化4～6 まとめ 種の起源について 遺伝子はダメなあなたを愛している 新型コロナと文明 まとめの時間 後期期末試験	1 1 3 1 3 1 1 1 2 1
実務経験の有無 その活かし方	無	
成績評価の方法	学年末評価は、前期と後期の期末試験による評価点の平均点（小数点以下は切り捨て）です。この学年末評価が60点以上であることが単位修得要件の1つです。	
履修上の留意点	再評価試験については、出席要件を満たし、学年末成績が50点以上の場合のみ、行います。やむを得ない理由があっても、15分を超える遅刻や早退は欠席扱いとなります。	
自己学習の進め方	毎時間の授業に集中し考えをまとめ、試験前に総合的に復習してください。	
使用教科書	配布資料や教室実験・ビデオ視聴	
参考書/参考資料	「発明発見物語」「生命46億年の旅」「地球大進化」	

令和4年度 授業計画書(シラバス)

科目名	保健体育	
課程	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅう科 専門課程	
対象クラス	2年	
担当教官名	新 八吉	
修得単位数	1単位	
年間授業時数	30時間	
授業の方法	実技	
科目の概要 (授業科目の内容)	施術者として必要な健康・安全や身体運動について学び、健康の保持増進のため運動を実践します。	
到達目標	身体運動を実践することにより施術に応用する能力と態度を習得することが目標です。	
授業計画	前期計 (15週)	前期計 15時間
	フライングディスク	4
	陸上競技	2
	球技	3
ストレッチ体操	3	
レクリエーション	2	
講義	1	
授業計画	後期計 (15週)	後期計 15時間
	陸上競技	4
	球技	2
	レクリエーション	1
ボッチャ	4	
講義	1	
ターゲットバードゴルフ	3	
実務経験の有無 その活かし方	無	
成績評価の方法	観察記録法により評価します。	
履修上の留意点	授業の冒頭では前回の授業の復習をし、また授業では各種目の完成を目指します。毎回習得度を確認し、不十分であれば繰り返し練習することで理解を深めます。	
自己学習の進め方	授業でスムーズに身体を動かすことができるように、またケガの予防のため日頃より軽くトレーニングを行ってください。	
使用教科書	無	
参考書/参考資料	必要に応じて配布します。	

令和4年度 授業計画書(シラバス)

科目名	生理学Ⅱ	
課程	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅう科 専門課程	
対象クラス	2年	
担当教官名	関矢 稔	
修得単位数	3単位	
年間授業時数	90時間	
授業の方法	講義	
科目の概要 (授業科目の内容)	生理学は、人体が健康を保つために備えている様々な生理機能とその仕組みについて学習する科目です。本授業ではそれら機能のうち、内分泌、生殖・成長と老化、神経、筋、運動、感覚、生体の防御機構、身体活動の協調について学習します。	
到達目標	各々の調節系の働きを理解し、それらが協調して生体の内部環境を維持する仕組みを説明できる。	
授業計画	前期計 (15週)	前期計 45時間
	第8章 内分泌 第9章 生殖・成長と老化 第10章 神経 期末試験 期末試験講評	10 6 28 1
	後期計 (15週)	後期計 45時間
	第11章 筋 第12章 運動 第13章 感覚 第14章 生体の防御機構 第15章 身体活動の協調 期末試験 期末試験講評	9 10 12 8 5 1
実務経験の有無 その活かし方	無	
成績評価の方法	前期、後期の学期末に「評価及び試験実施要領」第3条に基づく試験(評価)を行い当該学期の評価点とします。学年末評価は、前期と後期の評価点の平均点(小数点以下は切り捨て)です。授業の中では知識の定着状況を把握するための口頭試問や小テスト等を随時行いますが、単位修得の評価には含めません。	
履修上の留意点	再評価試験については、出席要件を満たし、学年末成績が50点以上の場合のみ、行います。やむを得ない理由があっても、15分を超える遅刻や早退は欠席扱いとなります。	
自己学習の進め方	利用者の皆さんには復習を軸にした学習習慣の形成を期待します。	
使用教科書	盲学校理療科標準教科用図書 生理学 第3版 第9刷(盲学校理療教科用図書編集委員会編・佐藤優子ほか)	
参考書/参考資料	標準生理学(医学書院)	

令和4年度 授業計画書(シラバス)

科目名	病理学概論	
課程	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅう科 専門課程	
対象クラス	2年	
担当教官名	渡邊麗恵	
修得単位数	2単位	
年間授業時数	60時間	
授業の方法	講義	
科目の概要 (授業科目の内容)	疾病の原因や疾病によって現れる症状と生体の反応を学習します。	
到達目標	1. 病理学用語を使用できるようになる。 2. 疾病の成り立ちを理解できる。 3. 施術者として必要な病理学の基本的事項を説明できる。	
授業計画	前期計 (15週)	前期計 30時間
	ガイダンス (授業の進め方、評価方法等)	1
	第1編 病理学の基礎	6
	第2編 病因 (1) 病因の一般、内因 (2) 外因 (3) 加齢・老化および小児疾患	8 7 2
第3編 病変 (1) 循環障害	6	
授業計画	後期計 (15週)	後期計 30時間
	第3編 病変 (2) 退行性病変 (変性・萎縮・壊死等)	4
	(3) 進行性病変 (肥大・再生・移植等)	5
	(4) 炎症 (炎症の概念、原因、炎症の経過と転帰等)	8
(5) 腫瘍 (腫瘍の意義・形態・構造等)	9	
(6) 免疫異常 (免疫の仕組み、免疫応答異常、免疫不全等)	4	
実務経験の有無 その活かし方	無	
成績評価の方法	理療教育実施細則24に基づき、各学期末に行われる期末試験 (筆記試験) の平均点 (小数点以下、四捨五入) を学年末評価とします。	
履修上の留意点	学年末成績が50点以上 (59点未満) の場合のみ、理療教育実施細則の規定により補習を行った上で再評価試験を行います。	
自己学習の進め方	授業時に確認した病理学の基本的事項を復習し、病理学用語をまとめたノートを作成します。	
使用教科書	疾病の成り立ちと予防Ⅱ (病理学概論) 改訂第7版2刷1巻 オリエンス研究会	
参考書/参考資料	疾病の成り立ちと予防Ⅱ (病理学概論) 改訂第7版2刷2巻 オリエンス研究会	

令和4年度 授業計画書(シラバス)

科目名	臨床医学総論	
課程	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅう科 専門課程	
対象クラス	2年	
担当教官名	村松 芳容	
修得単位数	3単位	
年間授業時数	90時間	
授業の方法	講義	
科目の概要 (授業科目の内容)	この科目は診察と治療の概要を学びます。具体的には診察方法、診察所見、症状、検査、治療について学びます。この科目の知識は、患者の訴える症状や所見、検査結果から原因となる病態や疾患を推論する能力となり、実際の臨床では診察から診断へ結びつけるための知識となります。国家試験だけでなく、臨床でも欠かせない知識となる重要な科目です。	
到達目標	各種診察法や臨床検査法の概要及び治療法の概要を説明できる。身体所見から、疑われる疾患を診断・推論することができる。	
授業計画	前期計 (15週)	前期計 45時間
	第1章 診察の概要	2
	第2章 診察の方法 第1節 医療面接	2
	第2節 視診法	15
	第3節 触診法	6
	第4節 打鍼法	2
	第5節 聴診法	4
	第6節 測定法	8
	第7節 神経系の診察	4
	総括的評価 (中間試験・期末試験)	
	総括的評価の講評	2
	後期計 (15週)	後期計 45時間
	第7節 神経系の診察	12
	第8節 その他の身体機能の診察法	10
	第3章 臨床検査	10
	第4章 治療法	9
	第5章 臨床心理	2
	総括的評価 (中間試験・期末試験)	
	総括的評価の講評	2
実務経験の有無 その活かし方	有	あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師
		実務経験を活かし、施術に応用できる身体診察のポイントを指導します。
成績評価の方法	前期・後期の期末に「評価及び試験実施要領」第3条に基づく試験(評価)を行い、当該学期の評価点とします。学年末評価は、前期と後期の評価点の平均点(小数点以下は切り捨て)です。また、知識の定着や自主学習状況の把握のため、確認テストや授業内の口頭試問などを随時行いますが、単位修得に関わる評価ではありません。	
履修上の留意点	再評価試験については、出席要件を満たし、学年末成績が50点以上の場合のみ、行います。やむを得ない理由があっても、15分を超える遅刻や早退は欠席扱いとなります。	
自己学習の進め方	授業内で教授した重要事項を中心に復習して下さい。	
使用教科書	生活と疾病Ⅱ(臨床医学総論)第2版 第2刷 黒岩聡ほか	
参考書/参考資料		

令和4年度 授業計画書(シラバス)

科目名	理療臨床医学各論 (病態生理学を含む)	
課程	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅう科 専門課程	
対象クラス	2年	
担当教官名	関矢 稔	
修得単位数	3単位	
年間授業時数	90時間	
授業の方法	講義	
科目の概要 (授業科目の内容)	この科目では運動器疾患・神経系疾患の病態生理及び診断、治療の概要を学びます。	
到達目標	各疾患の発症機序を理解し、症状発生の責任組織を推察することができる。臨床における診察所見から施術対象組織を適切に選択し、また施術の適否の判断につなげることができる。	
授業計画	前期計 (15週)	前期計 0時間
	別紙	
	後期計 (15週)	後期計 0時間
	別紙	
実務経験の有無 その活かし方	無	
成績評価の方法	前期、後期の学期末に「評価及び試験実施要領」第3条に基づく試験(評価)を行い当該学期の評価点とします。学年末評価は、前期と後期の評価点の平均点(小数点以下は切り捨て)です。授業の中では知識の定着状況を把握するための口頭試問や小テスト等を随時行いますが、単位修得の評価には含めません。	
履修上の留意点	再評価試験については、出席要件を満たし、学年末成績が50点以上の場合のみ、行います。やむを得ない理由があっても、15分を超える遅刻や早退は欠席扱いとなります。	
自己学習の進め方	疾患の示す症状がなぜ現れるのか、その病態生理を理解するために、日頃より生理学、解剖学の復習に努めて下さい。	
使用教科書	生活と疾病Ⅲ(臨床医学各論)第5版 旨学校理療教科用図書編纂委員会	
参考書/参考資料		

(別紙) 令和4年度 授業計画書(シラバス)

科目名	理療臨床医学各論 (病態生理学を含む)	
前期の授業計画	前期計 (15週)	前期計 45時間
	<p>1 整形外科疾患の病態生理及び診断、治療 ※うち14時間：病態生理学を含む</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 関節疾患 7 ② 骨代謝性疾患・骨腫瘍 3 ③ 筋・腱疾患 2 ④ 形態異常 4 ⑤ 脊椎疾患 7 ⑥ 脊髄損傷 2 ⑦ 外傷 10 ⑧ その他の整形外科疾患 2 <p>2 神経疾患の病態生理及び診断、治療 ※うち5時間：病態生理学を含む</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 脳血管疾患 7 <p>期末試験</p> <p>期末試験 講評 1</p>	
後期の授業計画	後期計 (15週)	後期計 45時間
	<p>2 神経疾患の病態生理及び診断、治療 ※うち10時間：病態生理学を含む</p> <ul style="list-style-type: none"> ② 感染性疾患及び脱髄性疾患 3 ③ 脳脊髄腫瘍 2 ④ 変性疾患 4 ⑤ 認知症 4 ⑥ 筋疾患 3 ⑦ 運動ニューロン疾患 2 ⑧ 末梢神経疾患 5 ⑨ 神経痛 3 ⑩ 頭痛 4 <p>3 一般外科 (病態生理及び診断、治療) ※うち5時間：病態生理学を含む 9</p> <p>4 麻酔科・ペインクリニック (病態生理及び診断、治療) ※うち1時間：病態生理学を含む 5</p> <p>期末試験</p> <p>期末試験講評 1</p>	

令和4年度 授業計画書(シラバス)

科目名	東洋医学概論Ⅱ	
課程	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅう科 専門課程	
対象クラス	2年	
担当教官名	阿部 博明	
修得単位数	3単位	
年間授業時数	90時間	
授業の方法	講義	
科目の概要 (授業科目の内容)	本授業では、東洋医学の概念・診断法・治療法等の基本的事項、あはき施術を適切かつ効果的に行う知識・能力と態度の獲得を目指します。	
到達目標	東洋医学の基礎理論・病証論・診断法について理解し、東洋医学的治療について説明することができる。 東洋医学を応用して治療することができる。	
授業計画	前期計 (15週)	前期計 45時間
	1年次の総復習 第3編 東洋医学の疾病観 第1章 病因論 第2章 病機 第3章 病理・病証論 第4編 診断論 第1章 診察法の概要 第2章 四診法 総括的評価(中間試験・期末試験) 総括的評価の解答解説	12 4 1 17 1 8 2
	後期計 (15週)	後期計 45時間
	第4編 診断論 第2章 四診法 第3章 証の立て方 第5編 治療論 第1章 東洋医学における治療原則 第2章 鍼灸治療 第3章 日中鍼灸医学の特徴 第4章 手技療法 第6編 東洋医学の沿革 総括的評価(中間試験・期末試験) 総括的評価の解答解説	23 3 6 6 1 2 2 2
実務経験の有無 その活かし方	無	
成績評価の方法	前期、後期ともに中間期と期末に「評価及び試験実施要領」第3条に基づく試験(評価)を行い、その平均点(小数点以下は切り捨て)を当該学期の評価点とします。学年末評価は、前期と後期の評価点の平均点(小数点以下は切り捨て)です。この学年末評価が60点以上であることが単位修得要件の1つです。なお、成績には含めませんが、各単元の最後に形成的評価を目的とした問題演習を行います。形成的評価は授業中の発問により行います。	
履修上の留意点	再評価試験については、出席要件を満たし、学年末成績が50点以上の場合のみ、行います。やむを得ない理由があっても、15分を超える遅刻や早退は欠席扱いとなります。	
自己学習の進め方	この科目で習得する知識・技術は、すでに履修済みの経絡経穴概論Ⅰ、東洋医学概論Ⅰの知識を必要としますので、各科目の復習をしておいてください。また、本授業の復習による知識の定着とともに、実習に応用する等、治療技術の向上にも期待します。	
使用教科書	基礎理療学Ⅰ(東洋医学概論)改訂第7版(オリエンス研究会)	
参考書/参考資料		

令和4年度 授業計画書(シラバス)

科目名	経絡経穴概論Ⅱ	
課程	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅう科 専門課程	
対象クラス	2年	
担当教官名	鳥丸 大地	
修得単位数	2単位	
年間授業時数	60時間	
授業の方法	講義	
科目の概要 (授業科目の内容)	人体における経穴の全容、経絡各論（十二経脈、奇経八脈、奇穴）、要穴及び現代医学的研究などについて学びます。	
到達目標	同身寸法、骨度法の概念を理解し、人体に取穴することができる。 十四経脈所属の経穴を理解し、取穴することができる。 要穴を理解し、取穴することができる。	
授業計画	前期計 (15週)	前期計 30時間
	①ガイダンス ②復習（流注、骨度法） ③要穴 原・郄・絡・募・兪穴 五兪穴・五行穴 八会穴・八脈交会穴・下合穴 ④中間試験 ⑤期末試験 ⑥期末試験講評	1 2 25 1 1
授業計画	後期計 (15週)	後期計 30時間
	⑦正経十二経の経穴名と部位 ⑧奇経八脈 ⑨奇穴 ⑩組み合わせ穴 ⑪経絡経穴の現代的研究 ⑫復習 ⑬中間試験 ⑭期末試験 ⑮期末試験講評	14 2 5 4 2 1 1 1
実務経験の有無 その活かし方	無	
成績評価の方法	前期、後期ともに期末に筆記試験を行い、当該学期の評価点とする。学年末評価は、前期と後期の評価点の平均点（小数点以下は切り捨て）です。中間試験は成績には含めない形で実施する。この学年末評価が60点以上であることが単位修得の要件です。	
履修上の留意点	教科書又は配布資料を持参して授業に取り組んでください。	
自己学習の進め方	教科書や配布資料を基に自分なりに理解しやすい形でまとめるようにしてください。	
使用教科書	新版 経絡経穴概論 拡大版 第2版9刷 日本理療科教員連盟・公益社団法人	
参考書/参考資料		

令和4年度 授業計画書(シラバス)

科目名	あん摩マッサージ指圧応用実習Ⅰ（臨床実習前試験等を含む）	
課程	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅう科 専門課程	
対象クラス	2年	
担当教官名	関矢 稔	
修得単位数	4単位	
年間授業時数	124時間	
授業の方法	実技	
科目の概要 (授業科目の内容)	基礎実習で習得した術式を痙攣しながらその制度を高め、症状ごとの効果的なアプローチ方法を学びます。3年次の臨床実習に備え、医療面接から身体診察、病態把握、治療方針の立案の課程を経て効果的な施術を行うまでの一連の流れを習得します。	
到達目標	医療面接、身体診察から患者の病態を把握し、60分で全身施術を行うための治療方針を立て、主訴に応じた効果的な施術を行うことができる。	
授業計画	前期計（15週）	前期計 62時間
	基礎実習の総復習（リスク管理を含む）	10
	身体各所への圧迫揉捏	30
	総合練習	18
	臨床実習前施術実技試験	2
	期末試験	
	試験の講評	2
	後期計（15週）	後期計 62時間
	症状別あま指施術	
	肩関節痛	10
	腰痛	16
	その他の症状への施術	20
	臨床シミュレーション *臨床実習前試験等を含む	12
	期末試験	
	臨床実習前施術実技試験	2
	試験の講評	2
実務経験の有無 その活かし方	有	あん摩マッサージ指圧師
		治療効果の高い揉捏動作や押圧方向等について紹介します。
成績評価の方法	前期、後期の学期末に「評価及び試験実施要領」第3条に基づく試験(評価)を行い当該学期の評価点とします。学年末評価は、前期と後期の評価点の平均点(小数点以下は切り捨て)です。	
履修上の留意点	日頃から頭髪や爪の手入れ等身だしなみに留意し、授業では清潔な白衣上下を着用してください。授業開始前までに衛生的手洗いを済ませ、ベッドにタオルシーツを敷く等準備をしておいてください。	
自己学習の進め方	良い押し方は患者の評価に直結します。良い押し方のためには、体幹のトレーニングなど基礎体力をつけることや自身の体調管理などが欠かせません。日頃から体を鍛えて健康な体を作りましょう。また、身体診察から治療方針を立てるためには、1・2年で学ぶ学科の知識が欠かせません。実技の習熟だけに偏ることなく、これら知識の復習にも努めて下さい。	
使用教科書	保健医療基礎実習 第2版 都立文京盲学校理療科研究会	
参考書/参考資料		

令和4年度 授業計画書(シラバス)

科目名	あん摩マッサージ指圧応用実習Ⅱ（臨床実習前試験等を含む）	
課程	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅう科 専門課程	
対象クラス	2年	
担当教官名	渡邊麗恵	
修得単位数	2単位	
年間授業時数	64時間	
授業の方法	実技	
科目の概要 (授業科目の内容)	1年次に修得したあん摩、マッサージ、指圧の基礎的技術を発展・向上させ、各種疾患・症状に対する病態把握と応用的治療技術を学習することにより、3年次のあん摩マッサージ指圧臨床実習に応用できる技術と態度を学びます。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 主要な症状・疾患に対して適切かつ効果的にあん摩マッサージ指圧施術を行える。 2. 臨床実習に参加できる知識と技術を身につける。 3. 施術者として相応しい態度で安全に施術ができる。 	
授業計画	前期計 (15週)	前期計 32時間
	1. 導入（指導計画の説明等）	2
	2. 実践的な施術方法（1年次のマッサージ施術の基礎の確認）	2
	3. 健康医学分野の施術法	12
4. 産業医学分野の施術法	12	
5. 臨床入門（臨床実習前施術実技試験への対応を含む）	4	
授業計画	後期計 (15週)	後期計 32時間
	1. 日常遭遇しやすい主な症候・疾患に対する施術	12
	2. 運動療法	6
	3. 臨床入門（臨床実習前施術実技試験への対応を含む）	8
4. 臨床実習前施術実技試験	2	
5. 早期臨床体験実習	4	
実務経験の有無 その活かし方	無	
成績評価の方法	前期、後期の期末評価の平均点をもって学年末評価とします。後期は臨床実習前試験を含めた評価を実施します。	
履修上の留意点	施術部位の解剖学的特徴を理解し、応用手技を正しくかつ安全に行うよう練習して下さい。実技参加にあたっては、事前に清潔な白衣の準備や爪切り、実習中のマスク着用を求めます。	
自己学習の進め方	施術部位の解剖学的特徴を予習をして実習に臨んで下さい。配布資料を精読し手順内容の理解に努めて下さい。	
使用教科書	保健医療基礎実習 第2版 都立文京盲学校理療科研究会	
参考書/参考資料	盲学校理療科標準教科用図書 解剖学 第2版16刷 盲学校理療教科用図書編纂委員会編・河野邦雄ほか	

令和4年度 授業計画書(シラバス)

科目名	はりきゅう応用実習Ⅰ（臨床実習前試験等を含む）	
課程	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅう科 専門課程	
対象クラス	2年	
担当教官名	鳥丸大地・島村明盛	
修得単位数	4単位	
年間授業時数	124時間	
授業の方法	実技	
科目の概要 (授業科目の内容)	施術者として必要な施術に関する知識と技術をを学習するとともに、施術を適切かつ効果的に行う能力と態度を身につけます。	
到達目標	施術者として基本的な態度、礼儀を身につける。 主要な症状・疾患に対して基本的身体診察ができる及び効果的な鍼灸施術ができる。 臨床実習に参加できる知識と技術を身につける。	
授業計画	前期計（15週）	前期計 60時間
	①ガイダンス	1
	②基本刺鍼の復習	6
	③現行十七手技	3
④全身調整穴の取穴と施術	14	
⑤全身への施術	18	
⑥臨床実習に向けた実践トレーニング *臨床実習前試験等	14	
⑦期末試験 *臨床実習前試験等	2	
⑧期末試験講評	2	
授業計画	後期計（15週）	後期計 60時間
	⑧主な症状に対する診察と施術	
	1.腰痛	10
	2.頸肩腕痛	8
3.肩関節・肘関節痛	8	
4.股関節・膝関節痛	8	
⑨特殊鍼法	6	
⑩臨床実習に向けた実践トレーニング *臨床実習前試験等	14	
⑪期末試験 *臨床実習前試験等	2	
⑫期末試験講評	2	
実務経験の有無 その活かし方	無	
成績評価の方法	前期、後期ともに期末に実技試験を実施します。実技試験80%と平常点20%で評価します。平常点は授業に取り組む態度で評価します。学年末評価は、前期、後期の評価点の平均点（小数点以下は切り捨て）です。この学年末評価が60点以上であれば単位修得要件の一つです。	
履修上の留意点	身体や白衣を常に清潔に保つよう心がけてください。 実習中は、鍼刺し事故等の過誤が生じないように、充分留意してください。 技術の習熟度に合わせ適宜時間数を調整します。 必要に応じて灸施術も行います。	
自己学習の進め方	この科目では解剖学、経絡経穴概論、東洋医学概論の知識を必要としますので、積極的に当該科目の復習をしておいてください。授業時間外で刺鍼練習を人体に行う場合には、教官の立ち合いが必要ですので遠慮なく声をかけてください。	
使用教科書	鍼灸実技（改訂第5版）（オリエンズ研究会）	
参考書/参考資料		

令和4年度 授業計画書(シラバス)

科目名	はりきゅう応用実習Ⅱ（臨床実習前試験等を含む）	
課程	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅう科 専門課程	
対象クラス	2年	
担当教官名	藤原 太樹	
修得単位数	2単位	
年間授業時数	64時間	
授業の方法	実技	
科目の概要 (授業科目の内容)	東洋医学的な病態把握に基づく診察と鍼灸施術について、臨床実習に向けて最低限必要な知識と技術を学びます。特に脈診と腹診、原穴・兪穴・募穴診などの東洋医学的診察から中医学的弁証論治と経絡治療の基礎について学びます。	
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・安全な施灸動作ができる。 ・解剖学、東洋医学概論、経絡経穴概論の知識に基づいた論理的な診察や施術計画を立てることができる。 ・臨床家に必要な接遇態度を身につける。 	
授業計画	前期計（15週）	前期計 32時間
	1. オリエンテーション 2. 基本施灸の復習 3. 背部兪穴の取穴と施灸 4. 東洋医学的診察と施術の概要 5. 脈状診 6. 腹診 7. 臨床実習前施術実技試験 8. 期末試験 9. 講評	2 4 8 4 6 4 2 2
授業計画	後期計（15週）	後期計 32時間
	1. 兪募穴、原穴治療 2. 比較脈診 3. 基本4証（肝虚、脾虚、肺虚、腎虚）の取穴 4. 臨床推論による弁証論治（婦人科、運動器、消化器、呼吸器） *臨床実習前施術実技試験への準備5時間を含む。 5. 所内臨床実習見学 6. 臨床実習前施術実技試験 7. 期末試験 8. 講評	4 4 6 12 2 2 2
実務経験の有無 その活かし方	無	
成績評価の方法	前期は学期期末実技試験（80％）と平常点（20％）で評価します。後期は学期期末実技試験及び平常点（併せて80％）と臨床実習前施術実技試験（20％）で評価します。前期と後期の平均点を学年末評価とします。	
履修上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・解剖学、東洋医学概論、経絡経穴概論の知識に基づいた施術の実施。 ・次年度の臨床自習を念頭に、患者様への安全な施術を意識した灸実技の実施。 	
自己学習の進め方	東洋医学的な病態把握に基づく施術をするためには、東洋医学概論と経絡経穴概論の知識が必要です。また、解剖学に基いた身体観察と触察が重要です。これらの科目について復習をして下さい。	
使用教科書	鍼灸実技（改訂第5版） オリエンス研究会	
参考書/参考資料		